第3学年　国語科　学習指導案

本時の主張

生徒は，自分のもつ漠然とした考えや思いを読み手に分かりやすく伝えられる文章にまとめたり，資料や引用などを有効に活用したりすることを苦手としている。また，話合い活動においては，一部の生徒だけが一方的に発言し，周囲はそれを聞くだけにとどまることが多く，意見交流というレベルに達しないことが多い。

そこで，生徒にとって大きな衝撃であった「東日本大震災」に焦点をあて，家庭生活や生徒会などで取り組んだ，節電や募金活動，合唱での慰問活動等，それぞれの活動や生活をふり返りながら，自分の考えや思いを 600 字程度の短評（コラム）形態で，意見をまとめさせていく。

短評が，漠然とした文章にならないようにするため，自分の考えを強めたり引き出したりするために新聞記事からの引用を取り入れさせる。本時では，互いの書いた文章を「引用と考えの整合性」等を主に相互評価する活動を取り入れ，小集団でのかかわり合いを組織する。さらに評価の観点は，文章を書く前に提示し，共通の観点で評価するようにする。

この活動を通し，読み手を意識して自分の考えを分かりやすく伝えられるコラムを書きあげさせたい。

１　単元名　　論理的な文章を書く　～自分の考えを説得力のある文章で表現しよう～

教材　「天声人語」

「論旨を捉える～論理の展開に着目して読もう」

（24 年度版 光村図書「国語３」）

東日本大震災を扱った各社の新聞記事

２　単元の目標

○　様々な文章を読み，引用のよさをとらえようとしている。　（関心・意欲・態度）

○　自分の考えを強調したり補完したりするための新聞の効果的な活用の仕方や，読み手を引き付ける文章構成が分かる。　（書くこと）

○　東日本大震災の記事から自分が考えたことを，適切な引用を取り入れながら読み手を引き付けるように 600 字程度の短評（コラム）を書き上げることができる。　（書くこと）

３　単元の評価規準

関心・意欲・態度	書く能力	読む能力	言語事項
・読み手に説得力のある文章で自分の考えを伝えるために，モデル文や様々な文章から工夫を見いだしている。 ・自らの考えを創るために，東日本大震災	・読み手に自分の考えを伝えるための論理的な展開にするために，自分の経験や新聞記事からの引用などを，どのように取り入れるかを考えて構成している。	・モデル文や様々な新聞記事を，引用の仕方や論理構成の工夫をとらえようとしながら読んでいる。 ・互いの文章を読み比べ，構成や展開，表現の仕方について，	・短評を書くための，言葉の特徴やきまりを理解し，適切な言葉遣いで文章を書いている。

にかかわる様々な記事を集めて読んでいる。 ・友達の文章を自分の表現に役立てたり，友達の文章をよりよくしたりしようと，主体的に交流に取り組んでいる。	・自らの主張や考えに説得力をもたせるために，客観性や信頼性の高い資料を見いだしたり，自分の考えの根拠としてふさわしい部分を引用したりしている。	具体的に良さや改善点を見いだし，伝え合っている。	

4　単元の指導の構想

(1)　単元と生徒

平成 24 年度から使用する教科書の中に，『論旨を捉える』という単元がある。「論理の展開に着目して読もう」という題材で，同じ出来事について書かれた，異なる二つの社説を比較することを通し，論理の展開や表現の工夫を見いだし，さらにそれらの工夫をいかして，自分の考えを書くことが設定されている。自らの主張を支える事実の選び方や取り上げ方，題名の付け方や文章の構成，及び展開の仕方，語句や用語の使い方等は今後の生活でも大切な力になってくる。

現 3 年生は，1 年時に「クジラの飲み水」で読み手に分かりやすく伝えるための文章構成を学んだ上で，夏休みに体験文を書く学習を行った。また，2 年時には「ホタルの里づくり」で段落ごとに要約を行い，正確に文章を読み取るための学習を行った上で，夏休みに意見文を書く活動を行った。3 年生になってからは，「メディアリテラシー」の学習を通して，メディアの特徴について知識を深め，新聞をはじめとするメディアにどのように接することが大切なのかを考え，文章にまとめる学習を行った。

しかし，自分の意見や考えをいかして，それを支える事実の選び方や取り上げ方，文章の構成や展開，文体を工夫してまとめることができないことを課題としている生徒が多いのが現状である。（意見文を書く力を伸ばしたい=67 ％ 回答）

そこで，本単元では，一人一人が考えをもちやすい「東日本大震災」という共通題材を設定し，そこから自分の考えや主張を作り，600 字程度の短評（コラム「〇〇人語」）にまとめるという課題を設定した。

まず，自分の曖昧とした考えをしっかりした考えにしたり，考えや意見をもたせたりするために「東日本大震災」にかかわる様々な新聞記事を読むという取材活動から始める。同じ事象であっても様々な角度から取材し書かれた記事を複数読んだり，比較して読んだりしていくうちに，自分の考えや主張が明確になり，他者に伝えたい思いや考えが生まれてくると考えた。

次に，他者に伝えたい自分の考えや主張を，「説得力をもって友達に伝えよう」という課題を投げ掛ける。モデル文としては朝日新聞 2010 年 9 月 17 日付けの『天声人語』「友達作りの手助け」を用いることとする。そのモデル文から，筆者の主張をとらえさせた上で，主張を支える事実の選び方や取り上げ方，文章構成等の工夫を見いださせる。

本単元の題材としては，「東日本大震災から自分はこう考える」という意見を 600 字程度の短評（コラム）としてまとめさせ，自分の経験と，適切な資料の引用を根拠として，自分の主張を論理的な文章に仕上げさせていく。

また，授業で話合い活動を行う機会をもっても，一部の生徒が活発に意見を言うものの，他の生徒は聞いているだけになりがちだという実態があり，一方的に自分の考えを発表するだけの活動で終わってしまう生徒がいるという課題がある。

そこで本単元では，生徒一人一人が自分の考えを深めるため，友達の考えにアドバイスをするために意見交流を位置付けることとした。　具体的な手立てとしては，まず，「考えと引用した

記事や体験が整合しているか」「構成は適切か」「引用や体験の分量と考えの分量は適切か」という共通の観点で，書いた文章を互いに読み合い，構成や材料の活用の仕方についての意図や思考の過程などについて交流することを構想している。

(2)　指導の構想

自らの意見を説得力ある文章にするため，自分の経験や資料などを適切に引用して書く力を付ける

①　相手意識を東日本大震災の被災者とし，目的意識は冊子「〇〇人語」を作成する記事として，今の自分の気持ちを伝える意見文を書く。

今年起こった未曾有の災害，東日本大震災は生徒にとっても，大変衝撃が大きいものだった。当校では，１年時の総合学習で災害防災学習を行っている。震災後は，委員会活動や部活動で被災された方に対して，生徒が発案して募金活動やボランティア合唱等を行っていて，被災者に対して，何か自分たちができることがあれば，という意識をもっている生徒が比較的多い。

しかし，漠然とした「思い」はあるものの，多くの生徒が自分の言葉で思いを表現することを苦手としていたり，漠然としているため自分の言葉では語ることができなかったりする。そこで，中学生の今だからこそもてる感受性により，被災者の思いや被災の現状を受け止め，そこから生徒が被災者に寄せている「思い」を漠然としたものから明確なものにした上で，説得力のある文章として短評にまとめ，相手に届けさせたいと考えた。

そこで，相手意識をしっかりもたせ，相手の状況を踏まえた上で，漠然とした気持ちを整理させ，短評にしっかりとまとめさせていく。

②　効果的に引用が用いられた文章を読み，説得力のある文章の書き方を学ぶ。

モデルの文章として，新聞のコラムを活用する。今回は半年ごとに図書の形で出版されており，生徒も目にする機会が比較的多いのではないかと考え「天声人語」を活用することにした。

コラム「天声人語」は，毎回決められたスペース（603 文字，6 段落構成）の中で，多種多様なニュースを切り口にして書かれており，表現の仕方も記者の個性が表出している。時には比喩的な表現が使われていたり，内容も生徒にとっては知らない事象であったりするため，正確に文章の主旨をつかみ取るためには，聞き慣れない用語の意味を辞書で調べたり，周囲の大人に聞いたりする必要があり，文章の主旨をとらえようとする生徒の意欲を喚起できるのではないかと考えたからである。このような特徴を踏まえ，コラムの段落を「事実（事件）」，「引用」，「主張」のどれにあたるのか判断させたり，コラムニストが主張する論旨を正確に読み取らせたりすることを主眼に置く。この活動を通し，世の中には同じ事象についても様々な見方，考え方があることや，効果的に関連する情報や資料を引用することで，読み手に対して，説得力のある文章を発信できることを学ばせていく。

③　説得力のある文章にするための「構想メモ」を作る。

様々な記事から，共感する点，反論する点を見いだしメモをさせた上で，どの記事の意見に共感したか，または反論したいかを一人一人の「構想メモ」にまとめさせる。また，自分の論を説得力のある文章にするために根拠や事例として活用できる過去の体験や，裏付けとなる引用できる文章を見付けさせ，「構想メモ」に書き込ませていく。引用する際は，出典を明らかにし，正確に書き抜かせていく。

「構想メモ」に材料が集まったら，それを事実と意見の段落が明確か，より意見が分かりやすい配置になっているかという観点で，説得力のある構成に再構成させていく。

④　自分の立場を明らかにした文章を書く。

自分の立場や意見を効果的に伝えるために，記事を適切に引用するなどして，説得力のある文

章を書く。そのために，集めた記事や材料を分類するなど，整理させる。また段落の役割を考えて，文章を構成させる。例えば，問題や課題を述べる段落，集めた材料を基に考えや意見を展開させる段落，結論を述べてまとめる段落など，それぞれの段落に役割を定めて文章を考えさせる。

⑤　お互いの文章を読み比べさせ，自分の表現に役立つことを見付け出させる。

書いた文章を 3 人グループで互いの文章を回し読みさせる。その際に「内容が被災者の立場を考えて，自分の考えが明確に書かれているか」についてと「自分の意見，主張と引用が整合しているか，適切に引用できているか」という観点を設定し，その観点に基づき検討させる。

そして，観点に即して気付いたことや，書き手に対してのアドバイスを，付箋に書いて貼り，意見を交流させる。

5　単元の指導計画（全５時間）

時	学習のねらい（○）と主な活動内容（・）	評　価					
		関	話	書	読	言	評価基準
1	○　東日本大震災の被災者に対して，今の自分の気持ちを伝える文章を書く。 ・東日本大震災をテーマにした，いくつかの課題から，テーマを選択する。	○		○			・150 字から 200 字程度の短い文章で，自分の考えや気持ちを被災者に伝えようとしている。 ・自分の意見に関連する記事や文章に関心をもつ。
2	○　効果的に引用が用いられた文章を読み，説得力のある文章の書き方を学ぶ。 ・書かれた文章を読み，他の文章を引用するときのきまりや，自分の考えを展開するための効果的な引用方法について理解する。				○	○	・様々なものの見方や考え方があることを知る。 ・気になる記事に印を付ける。 ・文脈の中における語句の効果的な使い方，引用部分が論理の展開に活用されているかなどに注意して読む。 ・筆者の主張の中心となる文を見付け，筆者の主張を正確にとらえる。
3	○　構想メモを作る。 ・論理的な文章に活用できる経験や引用をどこに挿入するか，決定する。					○	・論理的に説明するために，文章の構成を考える。 ・自分の意見や主張をまとめ，その根拠となる自分の経験や，文章に引用できる情報を集め，整理している。
4	○　自己の立場を明らかにした文章を書く。 ・自分の立場を明らかにして，短評を 600 字程度でまとめる。			○			・論理の展開を工夫し，記事を適切に引用するなどして，説得力のある文章を書く。 ・自分の意見や主張，伝えたいことを明確にしている。

5 （本時）	・それぞれの短評を読み比べ，批評し合う。	○	○				・積極的に他者の文章に書き込みをしたり，小グループでの話合い活動で自分の考えを伝えたりしている。 ・意見交流を通して，読み手から指摘されたことや，書き手からの疑問・質問に対して分かりやすく説明している。

6　本時の学習（全５時間，本時：５／５時間目）

(1) 本時のねらい

◇説得力のある文章にするための評価の観点を共有し合い，的確なアドバイスをする。

◇互いの文章を論評する活動や話し合い活動を通して，他者の表現技法や引用の仕方を学び，自分の書いた文章の論旨や引用部分をふり返る。

(2) 本時の構想

①　ポイントをふまえて相互評価できるようにするため，お互いを論評し合うための視点を確認する。

他者の書いた文章に対して，様々に意見や考えを述べることを通して，文章表現や構成，展開の仕方について，今後，自分が書く文章に役立たせたい。そこで，どのような文章を書けば，より説得力のある文章になるのかを，小グループで話し合い，その視点を明らかにさせたい。

生徒に見いだしてほしい観点としては「自分の主張や意見を裏付けるための引用を行うこと」「適切な具体例や経験を入れること」「段落構成の工夫（問題提起・主張や意見・証明や理由説明・結論の段落をどのように構成するか)」がある。小グループで出た観点を全体で共有・確認するが，話合いで出ない観点については，モデルの文章で確認する。

②　自分の文章を説得力ある文章にするために，他者の文章を論評する。

他者の書いた文章に対して，様々に意見や考えを述べることを通して，文章表現や構成，展開の仕方等，①で確認した観点から，論評させ，記入させる。この活動を通して，自分の文章構成が効果的か，引用の仕方や分量はどうか等，気が付いたことを付箋に記録させ，書いた文章の周囲に，付箋を貼らせる。

③　他の生徒からの指摘事項を読み，書き手としての考えや，聞きたいことなどを交流させる。

自分が書いた文章に対して，他の生徒から受けた意見や指摘事項を受け，指摘の内容を確認し合う。特に文章を書いた意図と反する意見に対しては，話合いをし，読み手の理解を得るためにどのような工夫が必要か，グループ内で助言を求めさせ，必要に応じて付箋を移動させたり，まとめたりする。

④　他者の意見や自分が書き留めたメモをもとに，自分の文章を見直し，文章の構成を再考する。

今回の学習で学んだことを生かし，どのような文章構成だったらよかったのか，引用した事例は適切だったのか等，さらにどんな工夫をすれば，他者により伝わるのか等，記録させる。この記録をもとに，文章を再考し，「○○人語」を完成させる。

(3)　本時の展開と評価

学習内容・活動	教師の主な働き掛け(T)・予想される生徒の反応(S)	※留意点　◆評価
○　学習内容の理解 ○　『説得力のある文章』の観点を確認する （７分）	T：前の時間までに，東日本大震災で被災された方への思いや震災から自分が考えたことを書いてもらいました。この時間は，その文章を互いに読み合って，評価し合い，よりよいものへしていきます。 **【課題１】『説得力のある文章』の観点をふり返ろう** T：みなさんは，どのような文章が『説得力のある文章』だと考えていますか？これから，「評価カード」を配布します。出てきたことを確認して，評価カードに，お互いの文章を読み合うときの共通した観点として，記入しましょう。 S：新聞やニュースなど，事実を引用すること。 S：起承転結がはっきりしていること。 S：最初に主張があること。 S：主張したいことが分かりやすく書かれていること。 S：自分自身または身近な人の体験などを盛り込んでいること。 T：これから，グループの中で必要な条件が出てきているか，観点を読み上げるので，確認をしてください。 ①主張したいことが明確化されていること ②事実（体験，メディアなど）が引用されていること ③適切な具体例や経験を入れること ④段落構成の工夫がされていること 以上の観点を指摘できていますか。今日は，みなさんが書いた文章が，説得力のある文章になっているか，お互いに読み合い，批評し合います。	※授業前に，ワークシートを配付し，準備させておく。 ※思いつかない生徒には，自分の文章について，工夫したポイントを書くようアドバイスする。 ※あらかじめ，『説得力のある文章』にするための観点を黒板に提示する一覧を作成しておく。
○　『説得力のある文章』の観点に基づく相互評価	**【課題２】互いの文章を読み合い，相互評価しよう** T：今，みなさんから出し合ってもらった『説得力のある文章』の観点に基づいて，各グループごとに，お互いの文章を読み合います。その文章に対する自分の意見や考え，指摘事項，アドバイスをそれぞれ一言ずつでもよいので，付せんに書いて，貼ってください。また，自分の文章について気付いたことは，メモしておきましょう。時間は，一人	※ルール説明は，模造紙などにあらかじめ書いておき，なるべく時間をとらないようにする。 **◇【書くこと】** **課題1で出された観点をふまえて他者の文章を相互評価している。** **〔付箋への書き込み〕** **〔机間支援による見取り〕** ※付箋は色分け

（20 分）	に５分間とします。 Ｓ：主張したいことがはっきりしていていいね。 Ｓ：引用がたくさんありすぎて，かえって分かりにくい文章になっている気がするなあ。 Ｓ：起承転結の形になってないけど，結論が先に書いてあることで，インパクトが強い文章だね。 Ｓ：引用に対する自分の考えを付け加え過ぎているので，引用文の批判になってしまっているよ。	赤＝改善 青＝納得 黄＝メモ ※他者に正しく伝わるように工夫できる箇所や内容を確認させる。 ※他者から指摘されたことで，参考にできることを明らかにさせる。
○　相互評価に対する意見交流 （10 分）	**【課題３】受けた評価に対して，意見の交流を行い，自分の書いた文章を再考する。** Ｔ：ワークシートの書き込みやメモをもとに，意見交流をします。やり方は，次のとおりです。あとで文章を清書するために，直す部分をワークシートに優先順位をつけて，記録しておきましょう。 ①読み手は，文章を読んでよく分からなかったこと，確認したいことについて，聞いてください。 ②書き手は，自分の意図と違うコメントが書かれていた場合，読み手に説明をしてください。 **③『説得力のある文章』を書く上で，どんなことが大切なのか，グループの人が書いた文章の「この部分がこうだから」という具体例とその理由を明確にして話し合ってください。**	**◇【関心・意欲・態度】** **意見交流を通して，読み手から指摘されたことや，書き手からの疑問・質問に対して分かりやすく説明している。** 〔机間指導による見取り〕 〔ワークシート〕 ※他者に正しく伝わるように工夫できる箇所や内容を確認させる。 ※他者からの指摘で参考になったことを明らかにしておく
○　文章を完成させるため，修正を加える内容を整理し，ワークシートに記入 （８分）	**【課題４】** **話し合ったことをもとに，自分の文章を確認し文章に修正を加える内容を整理し，記入する。**	**◇【書くこと】** **メモから具体的に修正する内容を整理し，文章を再考するための優先順位を付けてワークシートに記入している。**
○本時のまとめ （5'）	Ｔ：今日の学習を通して，自分の文章を完成させるために，どのようなことに気を付けようと思いましたか。具体的にワークシートに記録できましたか。短評は，11 月 7 日までに完成させて提出とします。その後，完成した「○○人語」は印刷して，冊子の形にして読み合います。	※本時の学習を基に，自分の文章を推敲し，完成させるためのポイントを明確にさせる。

○参考文献○

・『新しい「言語力」育成シリーズ２中学生の「記述力」を育てる６つの要素』（岩間正則 著　明治図書）
・『指導計画から評価まで完全対応！　中学校国語科新授業モデル　書くこと編』（河野庸介・門戸千幸 編著 明治図書）
・『作文力を鍛える「作文ワーク」中学校』（野口芳宏 編　木更津技法研 著 明治図書）
・朝日新聞
・日本経済新聞
・新潟日報
・毎日新聞
・読売新聞
・写真集『日本の自然災害 東日本大震災襲来』（日本専門図書出版）
・『天声人語 2010 年 1 月- 6 月』（朝日新聞出版）
・『天声人語 2010 年 7 月-12 月』（朝日新聞出版）
・「天声人語」（朝日新聞）2011 年 1 月～　※月ごとにまとめられた配布冊子
・『心をつなぐニュース』（池上彰＋文藝春秋編　文藝春秋）
・「朝日新聞ＮＩＥ震災特集」（朝日新聞　2011 年 9 月号）
・『はじめてコラムを書く』（青木雨彦 著　主婦の友社）